

(CV in Japanese)

履 歴

内藤 俊史 (ないとう たかし)

1950 年生

学 歴

- 1973 年 3 月 慶応義塾大学文学部社会・心理・教育学科卒業
1978 年 3 月 慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程教育学専攻 単位取得退学
1998 年 5 月 博士(教育学)取得、慶応義塾大学、乙第 3195 号
(「道徳判断の発達の文化的普遍性と文化差に関する研究——認知論的発達理論の意義の検討と道徳判断の文化差に関するいくつかの調査」)
2019 年 1 月 学校心理士資格取得

職 歴

- 1978 年 4 月～1983 年 3 月 慶応義塾大学文学部助手
1983 年 4 月～1986 年 3 月 お茶の水女子大学 講師
1986 年 4 月～1994 年 3 月 お茶の水女子大学 助教授
1994 年 4 月～2016 年 3 月 お茶の水女子大学 教授
2016 年 4 月～2021 年 3 月 放送大学東京足立学習センター客員教授
2003 年 4 月～2004 年 3 月 お茶の水女子大学留学生センター長
1999 年 9 月～2000 年 6 月 客員教授、ミネソタ大学(米国)
2005 年 12 月～2011 年 9 月 兼任研究員、修養研究部会、野間教育研究所
2012 年 4 月～2018 年 10 月 兼任研究員、青年の自立と教育文化研究部会、野間教育研究所

社会的活動

・研究プロジェクト、社会活動

- 1993 年 8 月～1994 年 3 月 小学校道徳教育推進指導資料『指導の手引き』作成協力者、文部省
1996 年 4 月～1997 年 3 月 研究協力者、国立教育研究所
2016 年 4 月～2019 年 3 月 共同研究者(学びをひらく-“てつがくすること”を始めた子どもと教師-)、お茶の水女子大学附属小学校
2021 年 4 月～ 傾聴ボランティア、ハミング
2021 年 10 月～ 川越市社会教育委員

・学会役職、論文等審査委員会委員

- 1997 年～2000 年、2003 年～2006 年、2009 年～2012 年 理事、日本教育心理学会
1998 年～2000 年 『教育心理学研究』編集委員会委員、日本教育心理学会
1998 年～2001 年 理事、日本心理学会

2001年～2003年 特別研究員等審査会専門委員、学術振興会
2003年 優秀論文賞審査委員、日本教育心理学会
2003年～2005年 特色ある大学教育支援プログラムペーパーレフェリー、大学基準協会
2005年 優秀論文賞審査委員、日本教育心理学会
2005年～2022年 上廣道徳教育賞審査委員、上廣倫理財団
2009年～現在 Journal of behavioral science 編集委員会委員、Srinakahrinwirot
University (タイ)
2010年 城戸奨励賞審査委員、日本教育心理学会
2011年、2012年、2014年、2016年、2020年、2021年 博士論文審査委員 Indian Institute of
Technology Madras(インド)
2015年 博士論文審査委員 University of Mauritius(モーリシャス)
2020年 博士論文審査委員 ANNA University(インド)
2021年 博士論文審査委員 Crescent Institute of Science and Technology (インド)
2022年 博士論文審査委員 SASTRA Deemed University (インド)

・学術誌論文審査等(編集委員会常任委員としての審査を除く)

Academic letters(2021), Asian Journal of Social Psychology(2021), British Journal of
Guidance & Counselling(2020, 2021), Cognition and Emotion (2015), Cross-Cultural
Research (1996, 2017), Diaspora, Indigenous, and Minority Education(2020), 法と心理
(2002), International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation
(2014), Journal of Cross-Cultural Psychology (2017), Journal of Moral Education (2008,
2011, 2014), Journal of Social and Personal Relationships (2009, 2012), Motivation and
emotion (2011, 2020), NRO Programme Council for Applied Education Research(2018),
Psychologia (2008), Psychological Reports (2007, 2010, 2012, 2015), 心理学研究(2012,
2021), Spanish Journal of Psychology (2007), Studia Psychologica (2019).

・外部資金獲得

1989年 中国文化大学-国際心理学者会議(ICP)共催国際会議(台北、台湾)招待発表、中国文化大学
1991年 国際比較文化心理学会(IACCP)地域大会(デブレッセン、ハンガリー)発表、国際交流基金
1994年 国際比較文化心理学会(IACCP)第15回大会(パンプローナ、スペイン)発表、国際交流基金
2006～2008年 自然に対する感謝感情の日本-タイ比較研究、萌芽研究 文部省科学研究費(研究代
表者 内藤俊史)
1990～1991年「感情」の基礎メカニズムの検討、一般研究(B)、(研究代表者、藤永 保)
1993年 東アジアの母子関係における文化普遍性と特異性の研究、総合研究(B)(研究代表者、藤永
保)
1993～1995年 日韓乳幼児における母子相互作用の比較文化的研究、国際学術研究 文部省科学研究

- 費文部省科学研究費(研究代表者、藤永 保)
2004～2006 年 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究、基盤研究(B) (研究代表者、耳塚寛明)
2006～2008 年 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究-東北エリア第二波調査、基盤研究(B) (研究代表者、耳塚寛明)

業績

・著書、編著書

- 内藤俊史(1991) 『子ども・社会・文化—道徳的なこころの発達』、サイエンス社。
川上清文・藤谷智子・内藤俊史(1990) 『図説乳幼児発達心理学』、同文書院(「幼児期2---社会性と道徳性の発達」、149-185を執筆)。
押谷由夫・内藤俊史編著(1993) 『道徳教育』、ミネルヴァ書房(「道徳性の発達と道徳教育」、39-56を執筆)。
真仁田昭・内藤俊史編著(1999) 尾田幸雄監修 『心の教育実践体系1 幼児期の心の教育』、日本図書センター(「価値観の形成と心の教育」、36-46を執筆)。
押谷由夫・内藤俊史編著(2012) 『道徳教育への招待』、ミネルヴァ書房(「道徳性の発達」、46-65を執筆)。

・審査のある雑誌の論文

- 内藤俊史(1977) Kohlbergの道徳性発達理論。『教育心理学研究』、25、60—67。
内藤俊史(1979) 道徳教育と倫理的相対主義。『教育学研究』、46、31—41。
内藤俊史(1979) さまざまな道徳的評価語の相関分析。『教育心理学研究』、27、282-286。
Lin, Wen-Ying, and Naito, T. (1986) The moral judgments under different contextual considerations: Comparison between Taiwan and Japan. *Psychologia*, 29, 147-155。
内藤俊史(1987) こどもの内在的正義の観念としつけ態度との関係—農村地域におけるケーススタディ、『社会心理学研究』、3、29-38。
Naito, T. (1990) Moral education in Japanese public schools. *Moral Education Forum*, No. 152, 27-36。
Ibusuki, R and Naito, T. (1991) Influence of interpersonal relationships on helping norms among Japanese university students. *Psychological Reports*, 68, 1119-1129。
Naito, T. Ibusuki, R., Lin, W., & Rhee, W. (1991). Interpersonal relations and helping norms among university students of Japan, Taiwan, and Korea. *Psychological Reports*, 69, 1044-1046。
Naito, T. (1994) A survey of research on moral development in Japan. *The Cross Cultural Research*, 28, 40-52。
Gielen, U., & Naito, T. (1999) Teaching perspectives on cross-cultural psychology and Japanese society. *International Journal of Group Tensions*, 28-3, 319-344。
Naito, T., and Gielen, U. (1999) Cross-cultural psychology in Japan. *International Journal of Group Tensions*. 28-3, 303-317。
Naito, T., Wen-Ying, Lin, and Uwe, P. Gielen(2001) Moral development in east Asian

- societies: A selective review of the cross-cultural literature. *Psychologia*, *44*, 148-160.
- Naito, T., Wangwan, J., Tani, M. (2005) Gratitude in university students in Japan and Thailand. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, *36*, 247-263.
- 伊藤理絵・内藤俊史・本田薫(2009) 幼児に見られる攻撃的笑いについて—観察記録からの検討. 『笑い学研究 RIDEO』、16、日本笑い学会、114-118.
- Naito, T., Matsuda, T., Intasuwan, P., Chuawanlee, W., Thanachanan, S., Ounthitawat, J., and Fukushima, M. (2010) Gratitude for, and regret toward, nature: Relationships to proenvironmental intent of university students from Japan. *Social behavior and personality*, *38*(7), 993-1008.
- Naito, T. & Sakata, Y. (2010) Gratitude, indebtedness, and regret on receiving a friend's favor in Japan. *Psychologia*, *53*, 179-194.
- 福島明子・内藤俊史(2010)アロマセラピーが自然に対するイメージ・感謝感情、環境意識に及ぼす影響. 『アロマセラピー学雑誌』、10、1-16.
- Washizu, N. & Naito, T. (2015) The emotions *sumanai*, gratitude, and indebtedness, and their relations to interpersonal orientation and psychological well-being among Japanese university students. *International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation*, *4*(3), 209-222.
- Naito, T. and Washizu, N. (2015) Note on cultural universals and variations of gratitude from an East Asian point of view. *International Journal of Behavioral Science*. *10*, 1-8.
- 鷺巣奈保子・内藤俊史・原田真有(2016) 感謝、心理的負債感が対人的志向性および心理的 well-being に与える影響. 『感情心理学研究』、24、1-11.
- Naito, T. and Washizu, N. (2019) Gratitude in life-span development: An overview of comparative studies between different age groups. *The Journal of Behavioral Science*, *14*, 80-93.
- 鷺巣奈保子・内藤俊史 (2021) 感謝と負債感が対人関係に与える影響—援助者に対する認知と動機づけに注目して—. 『お茶の水女子大学人間文化創成科学論叢』、23、151-159.
- Naito, T., Washizu, N. (2021). Gratitude to family and ancestors as the source for wellbeing in Japanese elderly people. *Academia Letters*, Article 2436.
<https://doi.org/10.20935/AL2436>.
- 鷺巣奈保子・内藤俊史(2022). 高齢期における感謝の特徴と機能. お茶の水女子大学人文科学研究 第18巻、157-168.
- Naito, T., Washizu, N. (2021). Gratitude in Education: Three perspectives on the educational significance of gratitude. *Academia Letters*, Article 4376.
<https://doi.org/10.20935/AL4376>.
- ・その他の雑誌掲載論文・書籍の分担執筆
- 並木博・内藤俊史(1975) 短い物語による倫理的場面の設定と判断に関する研究. 『哲学』(三田哲学会)、第63集、123-140.

- 並木博・内藤俊史・安岡龍太(1976)ピアジェと測定—数量的思考と道德判断の場合. 『慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要』、第 16 号、11-19.
- 内藤俊史(1977) 最近のアメリカ道德教育論の一断面. 『道德と教育』、第 203 号、42-47.
- Kawata, T., Naito, T., Namiki, H. Yamamoto, J. and Yasuoka, R. (1979). Experimental verification of mental-space theory and its problem at issue. 『慶応義塾大学社会学研究科紀要』 19, 91-97.
- 内藤俊史(1981) 豆まき. 『三色旗』 2 号、1.
- 内藤俊史(1982) 生徒の道德的融通性に関する調査. 『教育心理』、第 30 卷第 1 号、60-65.
- 内藤俊史(1982) インドの日本人学校. 『塾友』、No. 300、30-34、塾友社.
- 内藤俊史(1982) 道德性 (第 3 章). 無藤隆 編『ピアジェ派心理学の発展 1 一言語・社会・文化』、国土社、99-136.
- 内藤俊史(1983) 生活指導の方法 (第 9 章第 3 節). 村井実監 『人間の教育とその原理』、川島書店、91-100.
- 内藤俊史(1983) 道德性 (第 26 章) 三宅和夫・村井潤一・波多野誼余夫・高橋恵子編『児童心理学ハンドブック』、金子書房、688-714.
- 内藤俊史(1984) 道德性発達段階の文化的普遍性について. 『お茶の水女子大学人文科学紀要』、第 37 卷、117-139.
- 内藤俊史(1985) 「きまり」の学習=それを可能にする条件. 『児童心理』、39(10)、1220-1226.
- 内藤俊史(1985) コールバーグの道德性発達理論に基づく道德教育の実践. 永野重史編『道德性の発達と教育』、新曜社、223-241.
- 内藤俊史(1985) 思いやりの意味を求めて. 『道德と教育』、第 25 号、43-45.
- 内藤俊史(1986) こどもの因果応報の信念に関する研究. 『お茶の水女子大学人文科学紀要』、39 卷、153-170 (『教育学論説資料 第 6 号 1986 年発表論文集』再録、論説資料保存会)
- 内藤俊史(1986) 徳育の充実. 『道德と教育』、第 257 号、22-24.
- 内藤俊史(1986) 社会性の発達 (第 5 章). 斉藤幸一朗・並木博編 『教育心理学』、慶応通信、58-70.
- 内藤俊史(1987) 規則を守る心を育てる. 『児童心理』、41(12)、1557-1562.
- 内藤俊史(1987) 「道德」の時間のありかたをめぐって. 『道德と教育』、第 262 号、12-13.
- 内藤俊史(1987) 道德教育と道德性の発達心理学—道德教育を学びつつ考えたこと. 『人間発達研究』 通号 12、お茶の水女子大学人間発達研究会、29-31.
- 内藤俊史(1987) 道德教育 (第 7 章). 『児童心理学の進歩 1987 年度』、金子書房、145-169.
- 内藤俊史(1987) 道德性の発達と相互行為. 藤原保信・三島憲一・木前利秋編『ハーバーマスと現代』、新評論、182-206.
- 内藤俊史(1987) 親鸞とコールバーグ. 『道德性心理学研究』、日本道德性心理学研究会、33-37.
- Naito, T. (1990) Moral education in Japanese public schools. *Moral Education Forum*, No. 152, 27-36.
- 内藤俊史(1990) きょうだい関係と子どもの社会化. 『子どもと家庭』、第 27 卷第 9 号、11-14.
- 内藤俊史(1990) 道德性の発達と道德教育. 村井実・遠藤克弥編著『共にまなぶ道德教育』、川島書店、89-112.
- 内藤俊史(1990) 道德性の発達の過程. 西村浩・鈴木慎一編著 『教職課程講座第 5 巻道德教育』 ぎょうせい、129-140.

- 内藤俊史(1991) 年齢別「思いやり」の育て方. 『別冊PHP』、第60号、30-43.
- 内藤俊史(1990) 東アジアの青年の道徳性. 『三田評論』、No911、25.
- 内藤俊史(1991) 道徳的行動の発達. 大西文行編『新児童心理学講座9』、金子書房、95-137.
- Naito, T., and Gielen, U. (1992) Tatemaie and Honne: A Study of moral relativism in Japanese culture.. In Gielen, Uwe P., Leonore Loeb Adler and Noach Milgram (Eds.). *Psychology in international perspective*. Swets and Zeitlinger: Amsterdam, 161-172.
- 内藤俊史(1992) 道徳性の記述. 『発達心理学ハンドブック』、福村書店、1321-1326.
- 内藤俊史(1992) 道徳的価値を自覚する能力について. 個性教育研究会編『豊かな発想を育てる小学校授業づくりアイデア全書 第10巻道徳』、ぎょうせい、13-17.
- 内藤俊史(1992) 「偉人伝」の効用 『児童心理』、46(15)、p1841-1846.
- 内藤俊史(1992) 価値観の展開、藤永保編『現代の発達心理学』、有斐閣、278-288.
- 内藤俊史(1992) コールバーガーハード面の発達理論. 日本道徳性心理学研究会編『道徳性心理学—道徳教育のための心理学』、北大路書房 47-59.
- 内藤俊史(1993) 子どもとマンガ・こんな心配Q&A. 『別冊PHP』2月号、77-85.
- 内藤俊史(1993) おいしさの心理的要因、おいしさの環境要因. 島田淳子・下村道子編『調理学講座、第1巻、調理とおいしさの科学』、朝倉書店、145-161.
- 内藤俊史(1993) 韓国における国際理解教育とその実践. 尾田幸雄編『実践講座 国際理解教育と教育実践、第13巻、国際理解教育における道徳』、エムティ出版、189-195.
- 内藤俊史(1994) 子どもにとってのきまりを考える—子どもの主体性を生かすきまり. 『児童心理』、48(16)、1521-1529.
- 内藤俊史(1994) 外国の人々と暮しに目を向けよう. 『小学校 読み物資料とその利用—「主として集団や社会とのかかわりに関すること』、文部省、80-81.
- 内藤俊史(1994) 道徳性の発達. 『小児看護』、17(12)、1631-1637.
- 内藤俊史(1995) 人にやさしい子の育て方 『別冊PHP』、3月号、50-57.
- Naito, T., and Gielen, U. (1996) Teaching cross-cultural psychology in Japan. *Cross-cultural Psychology Bulletin*, 30-2, 8-13.
- 内藤俊史(1996) 家庭と学校との提携と非連続. 『道徳と教育』、No 290・291、257-261.
- 内藤俊史(1996) いい性格の育て方. 『別冊PHP』8月、22-28.
- Naito, T., & Gielen, U.P. (1997) Comparing relation-based norms between Japan, Korea, and Taiwan: Implications for international education in Japan. In Bruce Bain, Henry Janzen, John Paterson, Len Stewin, & Agnes Yu (Eds.) *Psychology and education in the 21st century Proceedings of the 54th Annual convention international council of psychologists*. Edmonton: ICPress, 244-252.
- 内藤俊史(1997) 「よいこと・悪いこと」の教え方10のケース. 『別冊PHP』11月、49-56.
- 内藤俊史(1997) 技術革新のもたらす倫理的問題と道徳教育. 『道徳と教育』、No. 43(1・2)、269-272.
- 内藤俊史(1998) 家庭教育の見直し. 子どもの個性(中教審「心の教育」答申読本—「新しい時代を拓く心を育てる. 『教職研修総合特集』、134、教育開発研究所、38-41.
- 内藤俊史(1998) お母さん、先生にこう言われたら・・・『マフィン』3月号、204-208.
- 高木友子・内藤俊史(1998) 青年期以降の発達研究の動向と課題. 『教育心理学年報』、第37

集、66-73.

- 内藤俊史(1998)大人になること--「自分勝手」の修正過程をたどる. 『児童心理』、52(13), 1184-1189.
- 内藤俊史(1999) ほめ方叱り方のコツ10ポイント. 『別冊PHP』3月、37-45.
- 内藤俊史(1999) いま、何をしつければよいか——子どもの自立のために親ができること. 『児童心理』、53(16)、1452-1457.
- 内藤俊史(1999) 道德性の発達と指導のポイント. 押谷由夫・伊藤隆二編著 『新小学校教育課程講座 道德』、ぎょうせい、66-71.
- 内藤俊史 (2001) 「道德ゲーム」への参加をこぼむ若者たち—「大人」がいない社会がやってくるのか. 『論座』、3月号、97-103.
- 内藤俊史(2001) 友だち関係をつくり、育てるもの. 『児童心理』、55(7)、17-22.
- 内藤俊史・奥野佐矢子(2002) レスト・ナルヴァエスによる道德教育プロジェクト——コールバーグ以降の道德教育案の一つの方向. 『道德と教育』、No. 312-313、124-130.
- Naito, T., & Gielen, U. P. (2003) How can Japanese society be explained from a cross-cultural point of view? *International Psychology Reporter*, 7(3), 18-19, 43.
- Naito, T., & Gielen, U. (2004) The changing Japanese family: A psychological portrait. In J. Roopnarine & U. P. Gielen (Eds.). *Families in global perspective*. Boston: Allyn & Bacon, 63-84.
- 内藤俊史(2004) 社会化 青池慎一・榊原博文編著『現代社会心理学』、慶応義塾大学出版会、231-251.
- 内藤俊史(2004) 成長とともに身につける「ありがとう」「ごめんなさい」. 『児童心理』、58(13)、1173-1177.
- Naito, T., & Gielen, U. P. (2005) Bullying and ijime in Japanese schools: A sociocultural perspective. In F. L. Denmark, H. Krauss, R. Wesner, E. Midlarsky, & U. P. Gielen (Eds.), *Violence in schools: Cross-national and cross-cultural perspectives*. New York: Springer, 169-190.
- 内藤俊史(2005) 道德性を構成するもの. 内田伸子編著、『心理学 こころの不思議を解き明かす』、光生館、83-104.
- 内藤俊史・山上真貴子・平井美佳・長谷川真里(2005) Moral Chronicityに関する予備的調査—女子学生を対象とした道德的特性語の収集. お茶の水女子大学21世紀COEプログラム プロジェクトI、基礎的心理発達過程の解明と教育的支援、平成16年度研究報告書.
- 内藤俊史(2006) 「フロイト」「ピアジェ」「エリクソン」. 押谷由夫・永田繁夫編『CD-ROM版小学校道德教育資料・実践事例集 理論編1』、ニチブン、203-203、205-206、207-208.
- 内藤俊史(2007) 生命観の発達心理学に向けて. 上廣倫理財団編『倫理的叡智を求めて』、東洋館出版、31-51.
- 内藤俊史・松田知子・福島明子(2007) 自然への感謝心と環境への態度との関連について—日本とタイとの比較研究のための予備調査. 平成18年度報告書 21世紀プログラムプロジェクト1. お茶の水女子大学

内藤俊史(2010)自然に対する感謝感情と環境保護態度. お茶の水女子大学コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応、平成21年度成果報告集、86-89.

内藤俊史(2012)修養と道徳——感謝心の修養と道徳教育. 『人間形成と修養に関する総合的研究野間教育研究所紀要』、51集、529-577.

内藤俊史(2013)規範意識に至る過程. 『幼児の教育』夏、112-113、日本幼稚園協会、19-21.

内藤俊史(2013)道徳的感情としての感謝. 安藤寿康・鹿毛雅治編『教育心理学』、慶応義塾大学出版会、42-44.

藤澤文・内藤俊史(2015)道徳性と道徳教育 稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋恵子・高橋知音・山祐嗣編『児童心理学の進歩2015年版』、金子書房、83-108.

内藤俊史(2017)てつがく科への期待と課題. 『児童教育』、27、お茶の水女子大学附属小学校NPO法人お茶の水児童教育研究会、5-8.

内藤俊史(2019)「てつがく」科の評価を考える前に. お茶の水女子大学附属小学校NPO法人お茶の水児童教育研究会 編著『新教科「てつがく」の挑戦——考え議論する——道徳教育への提言——』、東洋館出版、140-141.

内藤俊史(2019)青年期における心理的自立—感謝感情のあり方を通して—. 『野間教育研究所紀要』、第61集青年の自立と教育文化、238-268.

・その他

事典項目 Naito, T. (2013) “Moral development” (891-897), “Gratitude” (616-618), In Kenneth D. Keith (Ed.), *The Encyclopedia of Cross-Cultural Psychology*. New York: Wiley.

翻訳 アレン・L. エドワーズ著 並木博・小林ポオル・内藤俊史・佐伯千鶴子・岩田茂子訳 (1979) 直線回帰と相関—心理・教育・社会学のための統計学入門 慶応通信 コールバーグ、L. 著. 内藤俊史・千田正博訳(1985) 「である」から「べきである」へ、永野重史編 『道徳性の発達と教育』、新曜社、1-67 担当. 原著 Kohlberg, L. From is to ought. In Miscel, T. (Ed.), *Cognitive development and epistemology*. New York: Academic Press. 23-92.

座談会 押谷由夫・木村良平・内藤俊史・安友進市(1997) 座談会、子供たちの国際的な視野を育てる. 文部科学省教育課程課・幼児教育課編『初等教育資料』、東洋館出版社、32-43.

対談 土屋賢二(2009)『人間は考えても無駄である—ツチヤの変客万来—』(一部参加)講談社文庫.

解説 土屋賢二 (2013)『不要家族』、文芸春秋所収.

ビデオ教材出演

International Psychology: What Students Need to Know. APA Division 52 video series. Institute for International & Cross-Cultural Psychology. Saint Francis college. downloaded April, 22, 2015.

https://www.youtube.com/watch?v=oENW1DiFIic&feature=emb_logo

編集委員 道徳副読本『明日をひらく』中学1、2、3年、編集委員、東京書籍(1992年、1997年).

Curriculum Vitae (English)

Name: Takashi Naito

Nationality: Japan

Birth: 1950

Degree and qualification:

Ph.D., Keio University, Tokyo, 1998

The title of the thesis is “Studies of universality and cultural differences of moral development: An examination on the significance of the cognitive-developmental approach and some studies concerning cultural differences of moral judgment”.

(Written in Japanese).

Professor Emeritus, Ochanomizu University, Tokyo, 2016

School Psychologist, 2019-present

Professions/Social activities:

Member (vice-president) of *Keicho group Humming* (*Keicho* means counseling that emphasizes listening to and accepting clients)

Organizer of a website homepage (originally in Japanese)

<https://www.gratitude-psychology.com/>

Member of Advisory Committee on Soc. Education, Kawagoe city

Memberships: International Association of Cross-Cultural Psychology, Japanese Society of Educational Psychology (director, 1997-2000, 2003-2006, 2009-2012), Japanese Association of Psychology (director, 1998-2001)

1. Academic History and Career

1973 Bachelor of Education (Keio University in Tokyo)

1975 Master of Education (Keio University)

1978 Mastering doctor course of Education (Keio University)

1978 -1983 Full-time instructor, Keio University

1983-1987 Full-time lecturer, Department of Psychology, Ochanomizu University

1987-1994 Associate Professor, Department of Psychology, Ochanomizu University

1994-2004 Professor, Department of Psychology, Ochanomizu University

2004- 2015 Professor, Graduate School of Humanities and Science, Ochanomizu University

2015- 2016 Professor, Faculty of Core Research, Human Science Division, Ochanomizu University

2016-2021 Visiting Professor and Lecturer. The Open University of Japan (Tokyo Adachi learning Center)

Concurrent posts

1999 - 2000 Visiting Professor, University of Minnesota

2003 - 2004 Director, International Student Center of Ochanomizu University.

2004 - 2005 Visiting Professor, Graduate School, The Open University of Japan

2006 - 2019 Research Fellow, *Noma* Institute of Educational Research

2015-2019 Research Collaborator, The Primary School of Ochanomizu University, Tokyo.

2. Papers published in English

- Lin, Wen-Ying, & Naito, T. (1986). The moral judgments under different contextual considerations: Comparison between Taiwan and Japan. *Psychologia*, 29, 147-155.
- Naito, T. (1990). Moral education in Japanese public schools. *Moral Education Forum*, No.152, 27-36.
- Ibusuki, R., & Naito, T. (1991). Influence of interpersonal relationships on helping norms among Japanese university students. *Psychological Reports*, 68, 1119-1129.
- Naito, T., Ibusuki, R., Lin, W., & Rhee, W. (1991). Interpersonal relations and helping norms among university students of Japan, Taiwan, and Korea. *Psychological Reports*, 69, 1044-1046.
- Naito, T., & Gielen, U. (1992). *Tatema* and *Honne*: A study of moral relativism in Japanese culture. In Uwe P. Gielen, Leonore Loeb Adler, and Noach Milgram (Eds.), *Psychology in international perspective*. Amsterdam: Swets and Zeitlinger (161-172).
- Naito, T. (1994). A survey of research on moral development in Japan. *The Cross Cultural Research*, 28, 40-52.
- Naito, T., & Gielen, U. (1996). Teaching cross-cultural psychology in Japan, *Cross-cultural Psychology Bulletin*, 30-2, 8-13.
- Naito, T. (1997). Comparing relation-based norms between Japan, Korea, and Taiwan: Implications for international education in Japan. In Bruce Bain, Henry Janzen, John Paterson, Len Stewin Agnes Yu (Eds.), *Psychology and education in the 21st century Proceedings of the 54th Annual convention international council of psychologists Banff, Alberta, Canada July 24-28, 1996*. (244-252).
- Gielen, U., & Naito, T. (1999). Teaching perspectives on cross-cultural psychology and Japanese society. *International Journal of Group Tensions*, 28-3, 319-344.
- Naito, T., & Gielen, U. (1999). Cross-cultural psychology in Japan. *International Journal of Group Tensions*. 28-3, 303-317.
- Naito, T., Wen-Ying, Lin, & Uwe, P. Gielen (2001). Moral development in East Asian societies: A selective review of the cross-cultural literature. *Psychologia*, 44, 148-160.
- Naito, T., & Gielen, U. P. (2003). How can Japanese society be explained from a cross-cultural point of view? *International Psychology Reporter*, 7, 18-19, 43.
- Naito, T., & Gielen, U. (2004). The changing Japanese family: A psychological portrait. In J. Roopnarine & U. P. Gielen (Eds.), *Families in global perspective*. Boston: Allyn & Bacon (63-84).
- Naito., Wangwan,J., &Tani, M.(2005). Gratitude in university students in Japan and Thailand. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 36, 247-263.
- Naito, T., & Gielen, U. P. (2005). Bullying and *ijime* in Japanese schools: A sociocultural perspective. In F. L. Denmark, H. Krauss, R. Wesner, E. Midlarsky, & U. P. Gielen (Eds.), *Violence in schools: Cross-national and cross-cultural perspectives*. New York: Springer (169-190).
- Naito, T, Matsuda T., Intasuwan, P., Chuawanlee,W., Thanachanan,S., Ounthitiwat,J., & Fukushima, M. (2010). Gratitude for, and regret toward, nature: Relationships to proenvironmental intent of university students from Japan. *Social Behavior and Personality*, 38, 993-1008.
- Naito, T., & Sakata,Y. (2010). Gratitude, indebtedness, and regret on receiving a friend's favor in Japan. *Psychologia*, 53,179-194.

- Naito, T. and Washizu, N. (2015). Note on cultural universals and variations of gratitude from an East Asian point of view. *International Journal of Behavioral Science* 10(2), 1-8.
- Washizu, N., & Naito, T. (2015). The emotions *sumanai*, gratitude, and indebtedness, and their relations to interpersonal orientation and psychological well-being among Japanese university students. *International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation*. 4(3), 209-222.
- Naito, T. and Washizu, N. (2019). Gratitude in life-span development: An overview of comparative studies between different age groups. *The Journal of Behavioral Science*, 14(2), 80-93.
- Naito, T., Washizu, N. (2021). Gratitude to family and ancestors as the source for wellbeing in Japanese elderly people. *Academia Letters*, Article 2436.
<https://doi.org/10.20935/AL2436>
- Naito, T., Washizu, N. (2021). Gratitude in Education: Three perspectives on the educational significance of gratitude. *Academia Letters*, Article 4376.
<https://doi.org/10.20935/AL4376>.

3. Other publications in English

- Naito, T. (2005). Interview. In Uwe P. Gielen (Ed.). *Conversations with international psychologists*. Institute for International and Cross-cultural Psychology, St. Francis College. (113-117).
- Naito, T. (2013). Gratitude (pp. 616-618), Moral development (pp. 891-897), In Kenneth D. Keith (Ed.) *The Encyclopedia of Cross-Cultural Psychology*. New York: Wiley.
- DVD (appearance): *International Psychology: Perspectives and Profiles* (by Judy Kuriansky, Teachers College Columbia University)
<https://www.sfc.edu/academics/institutescenters/iiccp>

4. Books (in Japanese)

- Naito, T. (1991). *Kodomo, shakai, bunka [Children, Society and culture: development of moral mind]*. Tokyo: Saiensusha.
- Kawakami, K., Fujitani, T., & Naito, T. (1990). *Zusetsunyuyoujishinrigaku [Psychology of Infant and child]*. Tokyo: Doubunshoin.
- Oshitani, Y. & Naito, T. (Eds.). (1993). *Doutoku kyoiku [Moral education]*. Kyoto: Mineruba shobou.
- Manita, A. & Naito, T. (Eds.). (1999). *Youjikinoko kokoronokyoiku [Education for mind and heart in childhood]*. Tokyo: Nihon Toshosenta.
- Oshitani, Y. & Naito, T. (Eds.). (2012). *Doutoku kyoiku eno shoutai [Invitation to moral education]*. Kyoto: Mineruba shobou.

5. Papers published in journals of Japanese psychological associations (in Japanese)

- Naito, T. (1977). Kohlberg's theory of moral development. *The Japanese Journal of Educational Psychology*, 25, 60-67.
- Naito, T. (1979). Correlational analysis of moral-evaluative terms. *The Japanese Journal of Educational Psychology*. 27, 282-286.
- Naito, T. (1979). Moral education and ethical relativism. *Japanese Journal of Educational Research*, 46, 31-41.
- Naito, T. (1987). Children's beliefs of immanent justice and style of discipline. *Research in*

social psychology, 3, 29-38.

Takaki, T. & Naito, T. (1998). Tendencies and tasks of developmental studies in adolescents and later periods. *Annual Reports of Educational Psychology*, 63-73.

Fukushima, M. & Naito, T. (2010). Effects of aromatherapy on imagery and gratitude towards nature, and on environmental consciousness. *Japanese Journal of Aromatherapy*, 10, 1-16.

Washizu, N., Naito, T. , & Harada, M. (2016). Effects of gratitude and indebtedness on interpersonal orientation and psychological well-being. *Japanese Journal of Research on Emotions*. 24, No. 1, 1—11.

6. Social activities

1993 Member of the project for constructing materials for moral education classes, Japanese Ministry of Education.

1997-2000 Member of editorial board of *Japanese Journal of Educational Psychology*.

1997-2000, 2003-2006, 2009-2012 Director of Japanese Association of Educational Psychology.

1998-2000 Director of Japanese Association of Psychology.

1998-2015 School adviser of Chiba Educational Center.

2001-2003 Member of the judging committee of the Institute for Academic Development.

2005 Member of the judging committee of award for excellent study in a year (Japanese Association of Educational Psychology).

2005-present Member of the committee of *Uehiro* prize for moral education.

2009-present A member of editorial committee for *Journal of behavioral science*. Srinakahrinwirot University, Bangkok.

2010 Member of the judging committee of award for Kido prize in a year (Japanese Association of Educational Psychology).

Member of judging committees of Ph. D. theses (except Japanese universities)

Indian Institute of Technology, Madras, India, 2011, 2012, 2014, 2016, 2020, 2021

University of Mauritius, Mauritius, 2015

ANNA University, India, 2020

Crescent Institute of Science and Technology, India, 2021

SASTRA Deemed University, India, 2022

Ad hoc reviewers of academic journals

Academic letters(2021), Asian Journal of Social Psychology(2021), British Journal of Guidance & Counselling(2020,2021),Cognition and Emotion (2015), Cross-Cultural Research (1996,2017), Diaspora, Indigenous, and Minority Education(2020), Law and Psychology (2002), International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation (2014), Journal of Cross-Cultural Psychology (2017), Journal of Moral Education (2008, 2011, 2014), Journal of Social and Personal Relationships (2009, 2012),Motivation and emotion (2011, 2020), NRO Programme Council for Applied Education Research(2018), Psychologia (2008), Psychological Reports (2007, 2010, 2012, 2015), Japanese Journal of Psychology (2012, 2021), Spanish Journal of

Psychology (2007), *Studia Psychologica* (2019).

7. Lecturers and collaborative researchers (Japan)

- 1980 Lecturer, Yokohama National University
- 1983 Lecturer, Keio University
- 1987 Lecturer, Setagaya Civic University
- 1988 Lecturer, Keio University
- 1992 Lecturer, Tokyo Metropolitan University
- 1992 Lecturer, Keio University
- 1994 Lecturer, Tokyo University
- 1995 Lecturer, Rikkyo University
- 1996 Research Collaborator, National Institute of Education in Japan

8. Presentations at International Conferences

Invited presentation

- 1988 CCU-ICP International Conference, Taipei, Taiwan.
Moral education in Japan

Invited address

- 2002 31st Meeting of SCCR, Santa Fe, USA (with Gielen, U.P.).
The changing Japanese family

Oral or panel presentation

- 1990 16th Annual Meeting of Association of Moral Education, Southbend, USA.
- 1990 48th Annual Meeting of ICP, Tokyo, Japan.
- 1991 Regional Conference of IACCP, Debrecen, Hungary.
- 1991 49th Annual Meeting of ICP, San Francisco, USA.
- 1993 22nd Annual Meeting of SCCR, Washington, USA.
- 1994 15th Meeting of IACCP, Pamplona, Spain.
- 1995 53rd Meeting of ICP, Taipei, Taiwan.
- 1995 ICP Regional Conference, Manila, Philippine.
- 1995 21st Annual Conference of AME, Washington, USA.
- 1996 54th Meeting of ICP, Banff, Canada.
- 1996 Annual Meeting of Jean Piaget Society, Santa Monica, USA.
- 1999 25th Annual Conference of AME, Minneapolis, USA.
- 2004 Annual Conference of American Psychological Association, Honolulu, USA.
- 2005 31st Annual Conference of AME, Boston, USA.
- 2006 32st Annual Conference of AME, Fribourg, Switzerland.
- 2006 35th Annual Meeting of SCCR, Savannah, USA.
- 2007 4th International postgraduate research colloquium. Bangkok, Thailand.
- 2008 34th Annual Conference of AME, South bend, USA.
- 2016 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

